

小林鍛工株式会社

2024 年度 環境経営レポート

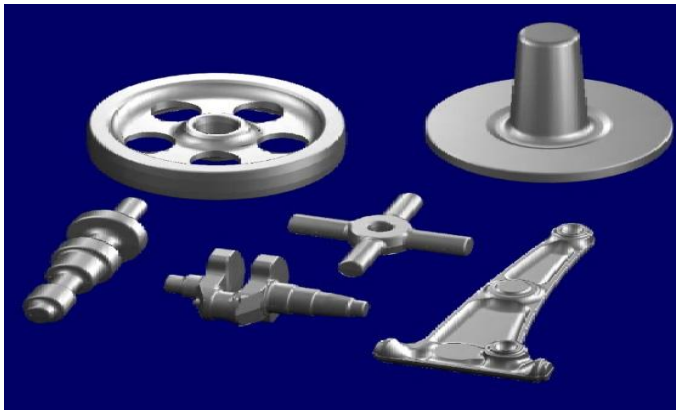
(対象期間: 2024 年4月1日～ 2025 年3月31日)



作成日: 2025年6月17日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	1
環境経営方針	1
組織の概要	2
事業・製品の紹介	2
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
主な環境負荷の実績	4
環境経営目標及びその実績	4
環境経営計画の取組結果とその評価	5-8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	10



堺泉北臨海工業地帯において、ハンマ鍛造により、歯車・車軸などの鍛造製品を製造販売しております。周辺には大企業も多く、環境活動に取り組んでおられるのをよく拝見いたします。我々としても、生産活動だけではなく、社会を形成して行く上での必要な取組であると考えています。規模は違いますが、我々としても出来る限りの活動に取組み、少しでも、環境への負荷の低減が出来るように努めます。

環境経営方針

<環境経営理念>

小林鍛工株式会社は、鍛造品の生産活動における環境負荷低減をめざし、可能の範囲において、環境保全の ための目標を設定し、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。安全で安心していただける商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって環境経営の継続的改善に努めて参ります

<環境保全への行動指針>

- 1 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 4 . 資源を大切にするとともに廃棄物の削減に努めます。
- 5 . 環境に配慮した製品の普及に努めます。
- 6 . 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日：2011年11月16日

改定日：2019年5月28日

(1) 名称及び代表者名

小林鍛工株式会社
代表取締役社長 小林 宏行

(2) 所在地

本 社・工 場 大阪府堺市西区築港浜寺西町7番地23号
TEL 072-268-1321
FAX 072-268-1323

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者

責任者・担当者 業務課 辻原 伸一
E-mail Kobatan@gaea.ocn.ne.jp

(4) 事業内容

農機用部品、自動車部品、産業機械部品の熱間型打鍛造製造及び販売

(5) 事業の規模

売上高 14.2億円(2024年度) 生産高 3525トン(2024年度)

		本社・工場	
従業員	名	29	名
延べ床面積	m ²	1729	m ²

(6) 事業年度 4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 小林鍛工株式会社
対象事業所： 本 社・工 場

活動： 農機用部品、自動車部品、産業機械部品の熱間型打鍛造製造及び販売

□事業紹介



【①材料入荷】



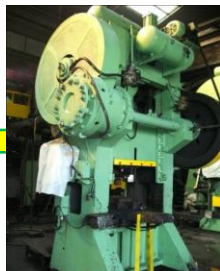
【②切断】



【③加熱】



【④鍛造】



【⑤トリミング】



【⑥熱処理】

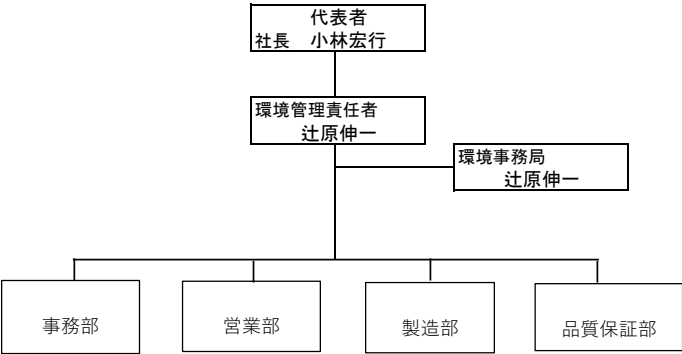


【⑦ショットブラスト】で完成

一般的な製品の製造工程

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日： 2023年3月31日



役割・責任・権限	
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,186,582	1,089,347	961,516
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	280	234	191
産業廃棄物排出量	トン	381	343	345
総排水量	m ³	2,966	2,754	2,609

※二酸化炭素排出係数 0.311 kg-CO2/kWh (2021年度関西電力・調整後排出係数)

注1 2022～2024年度二酸化炭素総排出量には灯油分を含む。

□環境経営目標及びその実績 (生産トン数原単位評価)

項 目	年 度	基準年	2024年		評 価	2025年	2026年
		(基準)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2/トン数	262.15	251.66	204.58	○	249.04	249.04
	基準年度比	2021年 100%	96%	78%		95%	95%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2/トン数	70.34	68.23	59.66	○	67.53	66.82
	基準年度比	2021年 100%	97%	85%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2/トン数	10.96	10.63	6.97	○	10.52	10.41
	基準年度比	2021年 100%	97%	64%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	1,277,295	1,232,590	955,993	○	1,251,749	1,238,976
一般廃棄物の削減	kg/トン数	0.0900	0.0864	0.0542	○	0.0855	0.0855
	基準年度比	2021年 100%	96%	60%		95%	95%
産業廃棄物 (スクラップ) の削減	トン数/生産トン数	0.1119	0.1085	0.0928	○	0.1074	0.1063
	基準年度比	2021年 100%	97%	83%		96%	95%
水道水の削減	m ³ /トン数	0.8223	0.7976	0.7401	○	0.7894	0.7812
	基準年度比	2021年 100%	97%	90%		96%	95%
環境に配慮した生産活動 (不良率削減)	不良率(%)	0.611	0.587	0.535	○	0.580	0.580
	基準年度比	2021年 100%	96%	88%		95%	95%

注2 PRTR対象物質についてはを使用していないため化学物質の目標設定はありません。

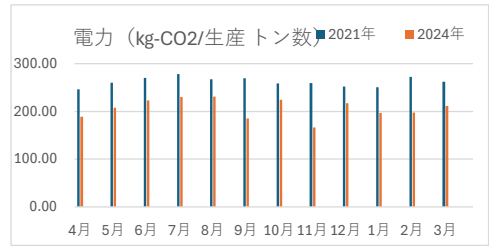
産業廃棄物(スクラップ)は「有価引取」です。

生産トン数	2021年(基準年)	3719トン
	2024年	3525トン

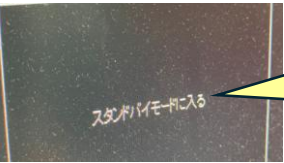
口環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標:○達成 ×未達成
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	年間を通して、未達もなく基準年度比22%の削減となった。生産量の落ち込みが多いが、使用量削減の活動も大きいと考えられる。来期については削減率が5%となるが、出来る範囲で活動を継続していきたい。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	○	
・パソコン・コピーの省電力設定	○	
・生産工程の待機時・作業時間短縮	○	
・空気圧縮機のアエア洩れ点検	○	



取組紹介欄

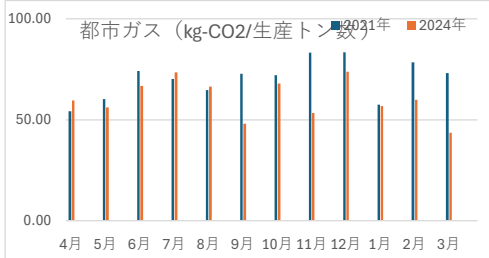


パソコンについては、
20分の待機期間があっ
た場合、スリープモー

注、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	246.04	259.86	270.17	278.04	267.43	269.76	258.85	259.11	251.78	250.82	272.53	262.45
2024年	188.72	208.07	222.77	230.23	230.71	185.29	224.11	166.64	217.10	196.89	197.37	211.66

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	今期の総括としては、基準年の15%の削減が出来た。主な使用量としては熱処理の炉になるが、効率よく使用しており、とくに問題がないと思われる。来期については、削減が-4%となるが、活動を継続し目標達成を目指します。
・ボイラ・加熱炉の空気比	×	
・蒸気・温水配管の保温修理	○	
・温水温度の適正化	×	
・ガス焼準炉の効率の良い使用	0	



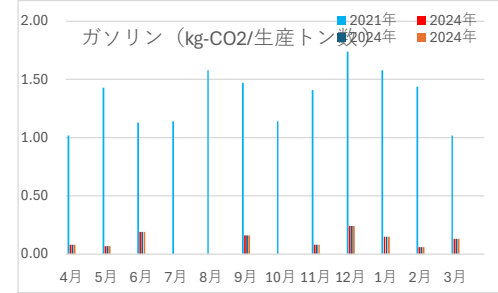
取組紹介欄

熱処理炉の熱が逃げないよう随時メンテを行う
熱処理の製品が少ないときは、外注依頼し、自社の使用を減らす

注、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	54.17	60.27	74.05	70.17	64.69	72.75	72.12	83.20	83.35	57.43	78.40	73.17
2024年	59.59	56.11	66.71	73.42	66.37	47.97	68.01	53.30	73.80	56.74	59.87	43.52

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	最終結果として、基準年の66%となり、目標は達成できた。やはり、年間を通して生産量の低下が大きく、そのことから納品が無く軽油の使用量の減少が特に大きいと思われる。来期に関しては、目標が-4%となるが、外注の使用や、効率の良い配送を行うようにする
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで配送	○	
・エリア別営業活動の見直し	○	

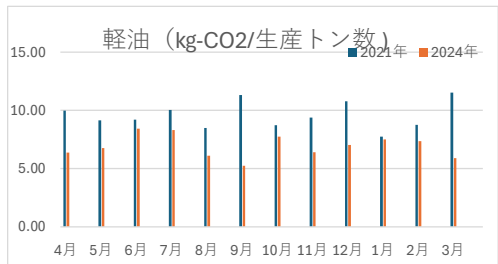


取組紹介欄

営業、打ち合わせ等は、極力ネットを使って行う。
エコドライブで走行し、燃費を上げるように心がける

注1、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です
注2、経営計画についてはガソリン・軽油の合計値になります

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	1.02	1.43	1.13	1.14	1.58	1.47	1.14	1.41	1.74	1.58	1.44	1.02
2024年	0.08	0.07	0.19	0.00	0.00	0.16	0.00	0.08	0.24	0.15	0.06	0.13



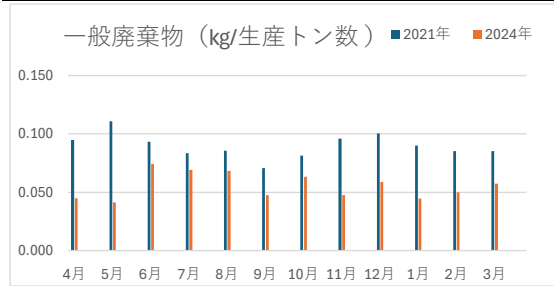
取組紹介欄

ルート配送時は効率が良くなるように配慮する
配送が少ないときは、自社便を使わず、外注に依頼

注1、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です
注2、経営計画についてはガソリン・軽油の合計値になります

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	9.97	9.13	9.21	10.03	8.49	11.31	8.74	9.39	10.78	7.74	8.77	11.52
2024年	6.37	6.75	8.42	8.30	6.10	5.25	7.76	6.41	7.03	7.52	7.37	5.89

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	今期は、未達もなく活動がちゃんと結果に反映されたと考えられる。顧客からの注文などもネットが殆どになり、紙の使用量はどんどん減ってきている。生ごみ等に関しても以前より少なくなっている為、結果40%の削減ができた。来期に関しても引き続き-4%が達成出来るように活動をしていく。
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・生ゴミ（茶殻等）の使用量削減	○	



取組紹介欄

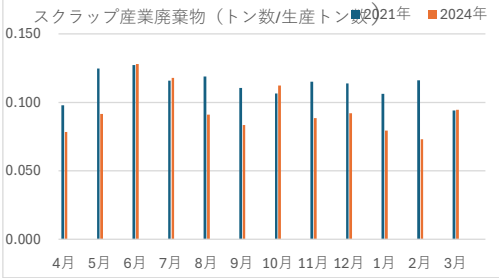


ゴミの分別化を行い
紙類はリサイクルを
行っている。

注、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.095	0.111	0.093	0.084	0.086	0.071	0.082	0.096	0.100	0.090	0.085	0.085
2024年	0.045	0.041	0.074	0.069	0.068	0.048	0.063	0.047	0.059	0.044	0.050	0.057

産業廃棄物(スクラップ)の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	今期の最終結果として、一部未達はあったが17%の削減が行えた。まず、外注に生産を移管したので、スクラップが減少した。製品不良に関しても、少なくなっているので、影響していると考えられる。来期は-4%の削減になるが、今以上に不良をへらし、歩留まりをあげることにより、排出量を減らしていく。
・協力会社(外注の活用)	×	
・歩留まりの最適化	×	
・不良率の削減	×	



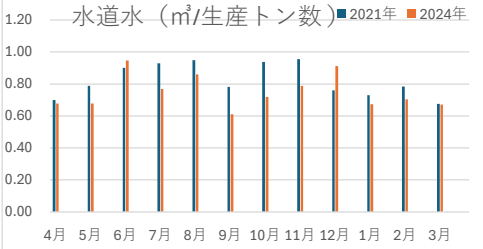
取組紹介欄

新製品の設計時に歩留まりをあげる
不良を出さないように、技術の伝承を行う
(下記、不良率参照)

注、下記計算については毎月の生産トン数当たりのkg-co2です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.098	0.125	0.127	0.116	0.119	0.110	0.107	0.115	0.114	0.106	0.116	0.094
2024年	0.078	0.091	0.128	0.118	0.091	0.083	0.112	0.089	0.092	0.079	0.073	0.095

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	最終結果として10%の削減ができた。生産量が減少している為、部分的な未達はあるが、節水ができたと思われる。来季の目標としては-4%の削減になるが、使用量の多いコンプレッサーや電気炉関係をメンテを行い、活動を継続する
・手洗い時の節水	×	
・生産工程での水の再利用	○	
・洗濯時の節水	×	



取組紹介欄

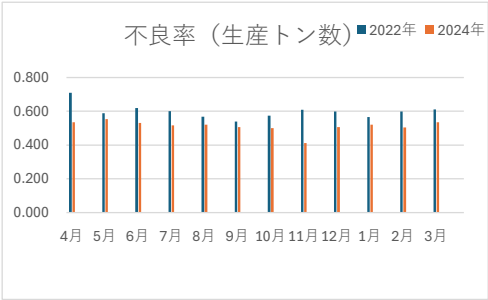
朝礼などで節水の協力を呼び掛ける
作業工程での漏水がないか定期的に確認を行う

注1、下記計算については毎月の生産トン数当たりのm³です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年	0.70	0.79	0.90	0.93	0.95	0.78	0.94	0.96	0.76	0.73	0.78	0.68
2024年	0.68	0.68	0.95	0.77	0.86	0.61	0.72	0.79	0.91	0.67	0.70	0.67

環境に配慮した生産活動（不良率削減）	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・数値目標	○	年間を通じて12%の削減になった。但し、年間生産量自体も減っている中での削減率では、満足した結果ではなかった。来期については-5%の削減が求められるが、作業員の教育が難しい、設備トラブル等の問題がある中での活動になると思われる。都度内容を確認し、不良が発生しない為の恒久的な対策を行い、目標達成を目指す
・製品製造時の不良の削減	△	
・作業員のレベル分けに応じた作業と教育 （当該項目は前年度対比です）	△	

取組紹介欄



③各ハンマー作業LEVEL基準	
LEVEL1	指導者の補助がなくても、ハンマー作業ができる者 欠付、部入れ、キズがわかる 製造作業の危険性を理解している 製造三善を理解し、その防止ができる者 製造適性教育を合格 バリ抜きプレス作業基準LEVEL2をクリアした者 加熱炉での基準LEVEL2をクリアした者
LEVEL2	ギヤ全周のハンマー作業が一人で出来る者（1.3hは除く） ギヤ、アタスル、フランジ関係ができ、且つ不良率が1.0%未満 ロール作業を練習中、又はロール作業の安定性に疑問が残る者 軸モノの不良率が1.0%以上になる者 インサート型交換を一人で出来る 倉庫交換の危険性を理解している キーの組み等、首である程度の間隔ができる者 機械設備の修理、メンテナンス等、指導者の補助があって作業できる者 実体温度と目標温度の差が明確でない事
LEVEL3	ギヤ全周のハンマー作業が一人で出来る者 ロール作業が安定して出来る、軸モノ不良率が1.0%未満 ロール作業、軸モノの危険性を理解している 既存製品の試作を行い、良品判断出来る 通常作業中のハンマー、プレストラブルに対処出来る者 機械設備の修理、メンテナンス作業ができる者
LEVEL4	LEVEL3に達成している者で実績が充分にある者 新規製品のテスト製造が行える 製造作業全般の危険性を熟知し、教育できる者、又安全、衛生管理に努める者

作業員をレベル分けし
レベルに応じた指導を
を行い、不良の削減に務

注1、下記計算については毎月の不良トン数/毎月の生産トン数です

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	0.709	0.588	0.619	0.600	0.567	0.540	0.575	0.609	0.598	0.566	0.598	0.611
2024年	0.535	0.555	0.531	0.517	0.521	0.506	0.501	0.412	0.507	0.520	0.504	0.535

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油、蛍光灯、電池等）
大気汚染防止法	金属加熱炉 ガス1台 電気2台
騒音規制法	空気圧縮機7台 鍛造機3台 機械プレス3台 他
振動規制法	空気圧縮機7台 鍛造機3台 機械プレス3台 他
水質汚濁防止法	油類流出事故時の措置と届出
消防法（危険物）	危険物の保管・消火設備の安全管理・維持 消防法危険物(4-2, 3, 4) の届出
改正省エネ法	すべてのエネルギーの使用の合理化, 非化石エネルギーへの転換, 電気需要の最適化
プラスチック資源環境促進法	廃プラスチック産業廃棄物（梱包用フィルム）
フロン排出抑制法	業務用エアコンの簡易点検の実施
顧客要求事項	品質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

(遵守評価日2025年3月10日)

なお、違反、訴訟等も過去3年間（2022年度から2024年度）ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

特に問題になるような苦情・要請共にありませんでした。(2024年4月1日～2025年3月31日)

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生及び大規模災害を想定	
■実施日： 2024年9月11日	■実施場所 工場内 出荷場 金型工場
■参加者： 工場組 青柳 近藤 芝 杉本 横田 有田 山口 馬殿 川内 藤原 仙次 藤田 古田 出荷場 桐山 梶川 角南 小崎 中西 金型工場 片上 水田	
■実施内容： ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練 昨年同様で大規模災害をメーンにした説明を行った。	
■評価： 最近の気候変動により、予想外の災害が発生している。このことから、作業人全員に非常時の意識を向けてもらうようにした。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 大規模災害について ①昨年と同じになるが、大規模災害（地震・津波等）が来た場合、ここは埋立地の為、水没してしまう可能性が高い。その為、高い場所に避難することが最優先であり その場所までの経路を確認した。 ②火災については、消火器の設置場所と設置本数を確認した。	

緊急事態の想定： 油流出事故の発生	
■実施日： 2024年9月11日	■実施場所 工場内と油庫
■参加者： 青柳 近藤 芝 杉本 横田 有田 山口 馬殿 川内 桐山 梶川 角南 中西 片上 水田	■実施内容： ・流出事故対応、通報訓練
■評価： 今期についても風水害対策に於ける、リスクの実態について確認した。	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 今年も危険物施設（油庫）についての油流出事故についての説明を行う 従業員に対し、防災レベル別の対応方法の説明を行った	
防災情報	
レベル1	防災情報の定期収集を開始
レベル2	施設の操業停止、規模縮小の準備を開始
レベル3	施設の操業を停止
レベル4	安全な場所で待機・情報収集などを継続
今期も、土壌を積む説明を行ったが、どのレベルでの作業が指示をしていなかった為参加者には、レベル3になる時点で、作業を行うように指示を行った。	

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2025年3月30日

今期2024年の活動に取り組みましたが、各エネルギーの使用量は減少したように感じました。見解としては、基準年には問題が無く標準的な数値であること、エネルギー使用量を減少させる為、今回も外注や協力会社に依頼を継続したことが、効果が大きかったと結論に至りました。そのことから来期2025年の目標については、基準年の変更を行わずに、各項目マイナス5%なるまでを一つの区切りとして考えています。ですので（電気・一般廃棄物・不良率）はマイナス5%（ガス・自動車燃料・産業廃棄物・水道水）はマイナス4%を目標に活動を継続して行きたいです。また、本社周辺の清掃活動を毎月1回は継続して取り組んでいることと、近畿鍛工品事業協同組合との勉強会等においても、環境についての色々な意見を取り入れて、フィードバックしながら、活動を継続していきたいと考えています。

- | | | |
|-----------|--|-------------------------------|
| 環境経営方針 | ☒ 変更なし | ☐ 変更あり |
| 環境経営目標・計画 | ☒ 変更なし | ☐ 変更あり |
| 実施体制 | ☒ 変更なし | ☐ 変更あり |